

# 『withコロナ、 afterコロナ時代における 地域包括医療・ケア』

三豊市 紫雲出山

観音寺市 豊稔池ダム

観音寺市 寛永通宝

観音寺市 高屋神社

三豊市 父母ヶ浜

第37回

## 地域医療現地研究会

開催日

令和5年5月12日(金)～13日(土)

会場

ハイスタッフホール(観音寺市)  
琴参閣(琴平町)

研究施設

三豊総合病院・三豊市立みとよ市民病院

主催／公益社団法人全国国民健康保険診療施設協議会  
公益社団法人国民健康保険中央会  
香川県国民健康保険診療施設協議会  
香川県国民健康保険団体連合会

Shikoku  
KAGAWA





外観



健診棟外観(完成予想図)

三豊総合病院は、昭和26年12月1日、周辺7か町村の組合立病院として37床、4診療科にて開院しました。基本理念に、『Medicine（信頼される医療）、Generality（保健医療福祉の包括・医療ケアシステムの展開）Hospital（優しさと情熱）』を掲げ、地域住民の満足が得られる医療水準の維持に努め、現在では462床（うち感染症4床、ICU・CCU10床）、29診療科を有する地域中核病院に成長しました。

また、災害拠点病院、第2種感染症指定医療機関、へき地医療拠点病院、地域がん診療拠点病院、地域医療支援病院、新型コロナウイルス感染症重点医療機関など数々の指定を受けています。コロナ禍においては、感染患者さんの受入れはもとより、救急を含む外来診療、入院や手術など医療提供体制の維持に努め、行政・医師会と協力しながらワクチンの優先接種、一般・追加接種を実施しています。

平成22年には、三豊総合病院、病院に併設する保健福祉総合施設「すこやか」、自治体より運営を引き継いだ介護老人保健施設「わたつみ苑」の3事業の経営を統合し、地方公営企業法を全部適用し、「三豊総合病院企業団」を組織しました。病院事業を収益の柱とした安定した経営基盤の下、平成25年8月に病棟部門、手術部門、リハビリ部門等を収容する「西棟（地上8階・地下1階、免震構造、19,167平米）」を整備し、また、令和5年4月には、健診部門と放射線部門、内視鏡センター、腎センターを収容する「健診棟（地上4階建て、4,148平米）」が竣工する予定です。



イメージパース

三豊市立みとよ市民病院は、昭和24年に北三豊国民健康保険町村組合立永康病院として発足し、2度の町村合併、移転を経て、令和4年に新病院「三豊市立みとよ市民病院」として開院しました。当院は11の診療科、一般病床46床（地域包括ケア病床を含む）、療養病床46床、精神病床30床の合計122床で運営しています。

当院は全室個室を基本としており、入院環境のクオリティ向上とともに、感染症に対しても効果が期待できます。今後も続くであろう感染症対策として、感染外来のスペースを確保したほか、複雑化した現代社会でうつ病などストレス系の悩みを抱える患者様がゆっくりと療養で

きるストレスケア病床を設置しています。

また、病院運営の根幹を支えるスタッフの労働環境については、スタッフルームを設置して改善を図っています。スタッフルームでは、持ち場を離れしっかりと休憩するとともに、多職種が集う院内での職種間交流を促進し、スタッフ同士の連携が活発化することを期待しています。